【資料３】

「東京都がん対策推進計画（第三次改定）」
中間評価について

東京都がん対策推進計画（第三次改定）の中間評価について

令和８年３月23日
第37回東京都がん対策推進協議会資料一部加工

令和８年度スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東京都がん対策推進協議会				協議会① 7/30 ・計画の進捗状況 ・評価指標について 他			協議会② ・計画の進捗状況 ・中間評価案の検討				協議会③ ・中間評価案検討 ・部会・WG報告	
部会		がんとの共生部会 7/6 がん医療部会 7/13	部会① ・各事業の進行管理 ・評価指標について				中間報告		部会② ・各事業の進行管理 ・中間評価案検討			
WG		緩和ケアWG 6/23 小児・AYAWG 6/30 就労支援WG 7/3	WG① ・各事業の進行管理 ・評価指標について					WG② ・各事業の進行管理 ・中間評価案検討				
調査等	調査準備			調査実施		調査結果取りまとめ						

中間評価

中間評価の手順

令和７年１０月６日
第92回がん対策推進
協議会資料一部加工

●ロジックモデルを活用してプログラム評価の手順で評価を実施する。
●中間評価では、プロセス評価、インパクト評価を中心に実施する。

ステップ1
- ニーズ評価〔必要性評価〕
- 満たされていないニーズを確認

ステップ2
- セオリー評価〔整合性評価〕
- ロジックモデルが論理的につながっているか

ステップ3
- プロセス評価〔実行評価〕
- 決めたことを実行しているかどうか

ステップ4
- インパクト評価〔効果評価〕
- アウトプットがアウトカムに対してインパクト効果を発揮しているか

ステップ5
- コストパフォーマンス評価〔費用対効果〕
- 効果から、費用や労力が正当化できるか

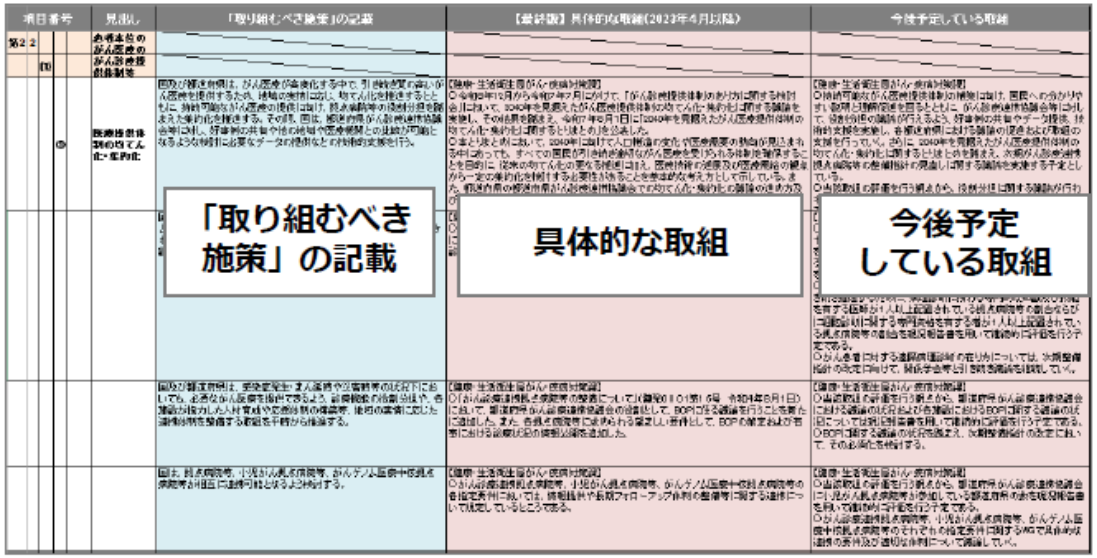
中間評価では
プロセス評価と
インパクト評価を
中心に実施

プロセス評価（実行評価）

令和７年１０月６日
第92回がん対策推進
協議会資料一部加工

●第４期がん対策推進基本計画の各分野に記載されている「取り組むべき施策」を実行したかを確認する

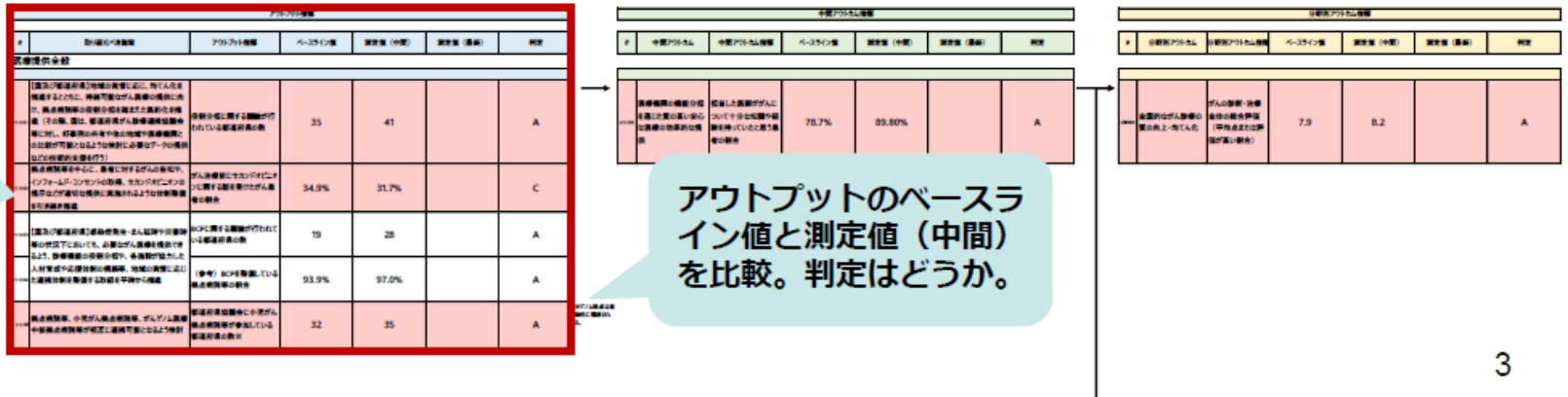
①　個別施策の進捗状況の確認
〔参考資料６_第４期がん対策推進基本計画施策に対する取組一覧（令和７年９月時点）.xlsx〕



<ポイント>
- ●施策は実施されたか、進捗はどうか？
- ●アウトプットは生まれているか？
- ●施策関係者はどのように感じているか？
（関係者ヒアリング）

②　ロジックモデルで施策と対応するアウトプットの確認
〔参考資料７_第４期がん対策推進基本計画測定値判定一覧.xlsx〕

施策を実施することで、アウトプットは生まれているか？

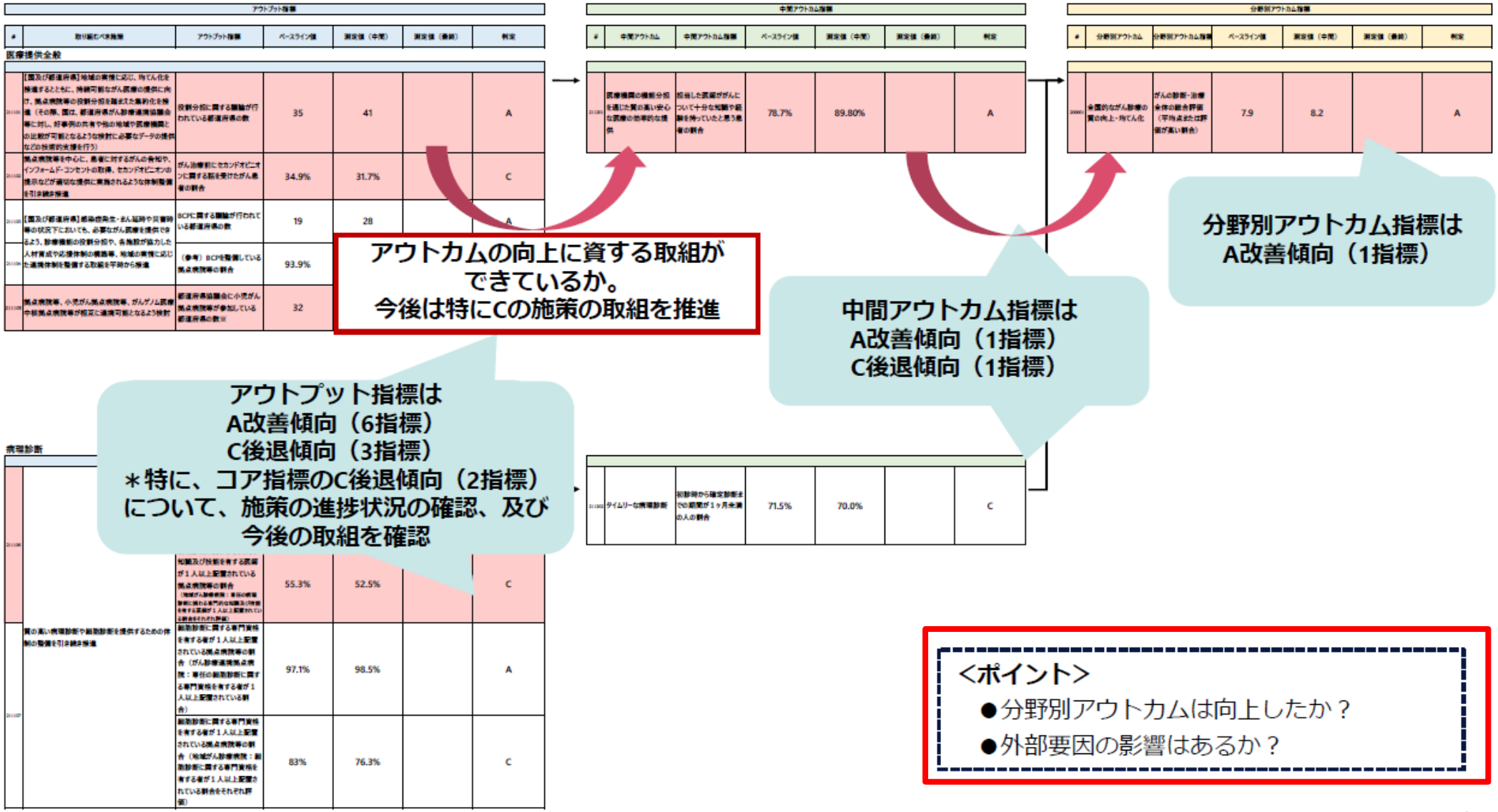


アウトプットのベースライン値と測定値（中間）を比較。判定はどうか。

インパクト評価（効果評価）

令和７年１０月６日
第92回がん対策推進
協議会資料一部加工

③　アウトプットがアウトカムに対して、インパクト効果を発揮しているか確認する
〔参考資料７_第４期がん対策推進基本計画測定値判定一覧.xlsx〕



アウトプット指標					
#	取り組むべき施策	アウトプット指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最新）	判定
医療提供全般						
21100	【国及び都道府県】地域の実情に応じ、均てん化を推進するとともに、持続可能ながん医療の提供に向け、拠点病院等の役割分担を踏まえた集約化を検討（その際、国は、都道府県がん診療連携協議会等に対し、好事例の共有や他の地域や医療機関との比較が可能となるような検討に必要なデータの提供など技術的支援を行う）	役割分担に関する議論が行われている都道府県の数	35	41		A
21102	拠点病院等を中心に、患者に対するがんの告知や、インフォームド・コンセントの取得、セカンドオピニオンの提示などが適切な提供に実施されるような体制整備を引き続き推進	がん治療前にセカンドオピニオンに関する話を受けたがん患者の割合	34.9%	31.7%		C
21103	【国及び都道府県】感染症発生・まん延時や災害時等の状況下においても、必要ながん医療を提供できるよう、診療機能の役割分担や、各施設が協力した人材育成や応援体制の構築等、地域の実情に応じた連携体制を整備する取組を平時から推進	BCPに関する議論が行われている都道府県の数	19	28		A
21104		（参考）BCPを整備している拠点病院等の割合	93.9%			
21105	拠点病院等、小児がん拠点病院等、がんゲノム医療中核拠点病院等が相互に連携可能となるよう検討	都道府県協議会に小児がん拠点病院等が参加している都道府県の数※	32			
病理診断						
21106	質の高い病理診断や細胞診断を提供するための体制の整備を引き続き推進	知識及び技能を有する医師が１人以上配置されている拠点病院等の割合（地域がん診療病院：専任の病理診断に関する専門的な知識及び技能を有する医師が１人以上配置されている割合をそれぞれ評価）	55.3%	52.5%		C
21107		細胞診断に関する専門資格を有する者が１人以上配置されている拠点病院等の割合（がん診療連携拠点病院：専任の細胞診断に関する専門資格を有する者が１人以上配置されている割合）	97.1%	98.5%		A
		細胞診断に関する専門資格を有する者が１人以上配置されている拠点病院等の割合（地域がん診療病院：細胞診断に関する専門資格を有する者が１人以上配置されている割合をそれぞれ評価）	83%	76.3%		C

中間アウトカム指標						
#	中間アウトカム	中間アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最新）	判定
21200	医療機関の機能分担を通じた質の高い安心な医療の効率的な提供	担当した医師ががんについて十分な知識や経験を持っていたと思う患者の割合	78.7%	89.80%		A
21201	タイムリーな病理診断	初診時から確定診断までの期間が１ヶ月未満の人の割合	71.5%	70.0%		C

分野別アウトカム指標						
#	分野別アウトカム	分野別アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最新）	判定
20000	全国的ながん診療の質の向上・均てん化	がんの診断・治療全体の総合評価（平均点または評価が高い割合）	7.9	8.2		A

アウトカムの向上に資する取組ができているか。
今後は特にCの施策の取組を推進

アウトプット指標は
A改善傾向（6指標）
C後退傾向（3指標）
＊特に、コア指標のC後退傾向（2指標）について、施策の進捗状況の確認、及び今後の取組を確認

中間アウトカム指標は
A改善傾向（1指標）
C後退傾向（1指標）

分野別アウトカム指標は
A改善傾向（1指標）

<ポイント>
- ●分野別アウトカムは向上したか？
- ●外部要因の影響はあるか？

中間評価の方法について（報告書イメージ）

令和７年１０月６日
第92回がん対策推進協議会資料一部加工

【全体目標】

「誰一人取り残さないがん対策を推進し、すべての国民とがんの克服を目指す。」

【分野別目標：がん予防】

科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実

～がんを知り、がんを予防すること、がん検診による早期発見・早期治療を促すことで、がん罹患率・がん死亡率の減少を目指す～

#	最終アウトカム	指標	ベースライン値	測定値（中間）	判定
000002	検診がん種の死亡率減少	がん種別年齢調整死亡率（75歳未満）胃			
000002	検診がん種の死亡率減少	がん種別年齢調整死亡率（75歳未満）女性乳房			
000002	検診がん種の死亡率減少	がん種別年齢調整死亡率（75歳未満）子宮頸			

＜進捗状況の評価＞ **※一部抜粋（例）**

～～～

第４期がん対策推進基本計画（国）の中間評価における対応方針について

令和８年３月23日
第37回東京都がん対策
推進協議会資料一部加工

○メリハリのある分析・評価のためのコア指標の選定

全ての指標を漫然と分析・評価するのではなく、重要な指標に絞ってメリハリをつけて分かりやすい分析・評価をする。「コア指標」を予め選定し、「その他指標」は測定結果のみを掲示し、進捗を把握する。

コア指標 96指標／296指標	指標としての質が高く、アウトカムへの影響も大きい指標 例）年齢調整死亡率／罹患率、がん種別早期がん割合、検診受診率（国民生活基礎調査）等 【選定の基本方針】 ①指標の評価として質が高い。（悉皆性、科学的信頼性） ②最終アウトカムへの影響が大きい。 ③都道府県等の比較が可能となる指標が望ましい。
その他指標	計画で掲示された施策の進捗や効果を把握するために定める指標 コア指標の評価の際に、分析にも用いられる

○都道府県ごとのがん対策の進捗状況の測定・公表と好事例の横展開の推進

都道府県ごとのがん対策の進捗状況を評価するため、都道府県ごとにコア指標を可能な限り測定・公表する。

都道府県のがん対策を見える化しながら、地域の実情に応じたより良い取り組みが横展開しやすくなるように取り組みを進める。

東京都がん対策推進計画（第三次改定）の中間評価における対応方針について

令和８年３月23日
第37回東京都がん対策
推進協議会資料一部加工

○国のがん対策推進基本計画における中間評価の実施方法を踏まえ、東京都においても、コア指標を選定し、施策が計画どおり実行されているか（プロセス評価）、その取組がアウトカムの改善につながっているか（インパクト評価）を中心に検証、評価を実施する。コア指標に基づく評価については、分野別ロジックモデルに対応した形で、各分野の専門的議論が必要であることから、各部会、各ワーキンググループで検討を行い、がん対策推進協議会において評価を行う。

以下の要素を考慮の上、「コア指標」を選定する。「その他指標」は測定結果のみを掲示し、進捗を把握する。

・国のコア指標（参考資料２参照）
・都の独自調査（患者調査、都民意識調査、医療施設等調査）がデータソースとなっている指標

○中間評価に当たっては、評価指標の測定に必要なデータを把握するため、データソースとして位置づけている各種調査を実施する。なお、「東京都がん医療施設等調査」については、地域医療の実態を把握するため、評価の調査項目として、地域の医療提供体制や医療機関間の連携状況等に関する調査項目を加える。

調査名	調査対象
東京都がん患者調査（小児も含む）	がん診療連携拠点病院等、小児がん拠点病院等
都民意識調査	都内全域に居住する都民
東京都がん医療施設等調査 （緩和ケア、小児・AYA世代、就労支援、その他の分野）	全指定病院、緩和ケア病棟設置病院、がん性疼痛緩和指導管理料算定病院、在宅療養支援診療所、地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局、訪問看護ステーション、企業

コア指標の設定・検討について

令和８年３月23日
第37回東京都がん対策推進協議会資料一部加工

・全分野の指標307個（再掲を含む）のうち、コア指標は123個
（国のコア指標、都の独自調査がデータソースとなっている指標、最終アウトカムは全指標をコア指標として選定）
・各分野別の設定状況は以下のとおり
・各部会、ワーキングでの検討を踏まえ、東京都がん対策推進協議会で検討を行う。

分野	アウトプット	中間アウトカム	分野別アウトカム	最終アウトカム	計	所管
全体目標 「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての都民とがんの克服を目指す。」	—	—	—	2(2)	2**(2)**	**東京都がん対策推進協議会 がん医療部会 がんとの共生部会**
1 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実	34(0)	15(9)	3(3)	—	52**(12)**	**東京都健康推進プラン２１推進会議**
2 患者本位で持続可能ながん医療の提供	68(10)	57(50)	6(4)	—	131**(64)**	**がん医療部会 緩和ケアワーキング 小児・ＡＹＡ世代がんﾜｰｷﾝｸﾞ**
3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる地域共生社会の構築	60(3)	31(29)	7(7)	—	98**(39)**	**がんとの共生部会 就労支援ワーキング 小児・ＡＹＡ世代がんﾜｰｷﾝｸﾞ**
4 基盤の整備	19(1)	5(5)	—	—	24**(6)**	主に再掲
計	181(15)	108(93)	16(13)	2(2)	307**(123)**	

（ ）：コア指標　再掲含む

コア指標の設定・検討について

指　　標			ベースライン値	目標	データソース
がん医療部会					
	最終アウトカム	がんの75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対）	64.9 （令和4年）	54.8未満	国立がん研究センターがん情報サービス
	最終アウトカム	日常生活をがんにかかる前と同じように過ごすことができていると回答した患者（手術や薬の副作用などはあるが、以前と同じように生活できていると回答した人を含む。）の割合	（成人） 66.8% （令和4年度） （小児） ― （基準値なし）	増やす	東京都がん患者調査
	分野別アウトカム	がんの診断・治療全体の総合評価（平均点）	8.3 （平成30年度）	増やす	国立がん研究センター患者体験調査（都道府県別集計）
	中間アウトカム	「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」（Ⅰ３(2)①ア～ケ）において、拠点病院間での役割分担の整理を求められている事項のうち、役割分担の整理・明確化を完了した項目の数	0 （令和５年度）	増やす	現況報告書
	中間アウトカム	がんゲノム医療について「内容まで知っている」と回答した都民の割合	6.5% （令和４年度）	増やす	都民意識調査
	中間アウトカム	治療に伴う副作用・合併症・後遺症について苦痛を感じている患者の割合	― （基準値なし）	減らす	東京都がん患者調査
	中間アウトカム	外来及び緩和ケア病棟において、リハビリテーションを「必要に応じて実施している」と回答した拠点病院等（成人・小児）の割合	【緩和ケア病棟】 32.7% 【外来】 44.9% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	セカンドオピニオンに関して医師からの説明を受けなかった患者の割合	39.0% （令和４年度）	減らす	東京都がん患者調査

コア指標の設定・検討について

指　　標			ベースライン値	目標値	データソース
がん医療部会					
	中間アウトカム	周術期口腔ケアについて「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した施設・事業所の割合	【がん診療を行う病院】 60.7％ 【在宅療養支援診療所】 49.7％ 【訪問看護ステーション】 43.4％ 【介護保険 サービス事業所】28.6％ （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	長期フォローアップの必要性について「知っている」と回答したがん患者の割合 ※小児と共通	（成人） ― （基準値なし） （小児） ― （基準値なし）	増やす	東京都がん患者調査 東京都小児がん患者調査
	中間アウトカム	小児がん経験者に対する成人後の長期フォローアップの実施状況について、「実施していない」と回答した指定病院の割合　※小児と共通	34.8％ （令和４年度）	減らす	東京都がん医療施設等調査

コア指標の設定・検討について

指　　標			ベースライン値	目標	データソース
がん医療部会					
	緩和ケアワーキング				
	アウトプット	がん患者指導管理料（※医師、看護師又は公認心理師が患者の心理的負担軽減のため面接実施）の算定件数	30,025件 （令和５年度）	増やす	NDB
	アウトプット	緩和ケア診療加算（※緩和ケアチームによる入院患者への診療実施）の算定件数	148,396件 （令和５年度）	増やす	NDB
	アウトプット	緩和ケアチームの新規介入患者数	【国拠点29病院】 17,956人 【都拠点9病院】 2,557人 【都協力20病院】 3,333人 【都小児13病院】 103人 （令和５年）	増やす	現況報告書
	アウトプット	がん患者指導管理料イ（※医師が看護師と共同して診療方針等について話し合い、その内容を文書等により提供）の算定件数	11,978件 （令和５年度）	増やす	NDB
	中間アウトカム	身体的な痛みや精神的な辛さなどの状態を把握するための問診表への記入や問診への回答を依頼されたことはないと回答した患者の割合	24.0% （令和４年度）	減らす	東京都がん患者調査
	中間アウトカム	身体の痛みや不快な症状について、医療従事者に伝えた後、対応があり改善したと回答した患者の割合	71.5% （令和４年度）	増やす	東京都がん患者調査
	中間アウトカム	心のつらさについて、医療従事者に伝えた後、対応があり改善したと回答した患者の割合	62.4% （令和４年度）	増やす	東京都がん患者調査
	中間アウトカム	社会的な問題について、医療従事者に伝えた後、対応があり改善したと回答した患者の割合	55.6% （令和４年度）	増やす	東京都がん患者調査

コア指標の設定・検討について

指　　標			ベースライン値	目値	データソース
がん医療部会					
	緩和ケアワーキング				
	中間アウトカム	「身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できますか」の問に対して「とてもそう思う」「ある程度そう思う」と回答した患者の割合	49.2% （平成30年度）	増やす	国立がん研究センター患者体験調査（都道府県別集計）
	中間アウトカム	「心のつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できますか」の問に対して「とてもそう思う」「ある程度そう思う」と回答した患者の割合	33.0% （平成30年度）	増やす	国立がん研究センター患者体験調査（都道府県別集計）
	中間アウトカム	死亡前１か月間の療養生活について、痛みが少なく過ごせた患者の割合	47.9% （令和元年度、2 年度）	増やす	国立がん研究センター遺族調査（都道府県別集計）
	中間アウトカム	死亡前１か月間の療養生活について、からだの苦痛が少なく過ごせた患者の割合	41.4% （令和元年度、2 年度）	増やす	国立がん研究センター遺族調査（都道府県別集計）
	中間アウトカム	死亡前１か月間の療養生活について、おだやかな気持ちで過ごせた患者の割合	45.6% （令和元年度、2 年度）	増やす	国立がん研究センター遺族調査（都道府県別集計）
	中間アウトカム	診断時の緩和ケアとして、緩和ケアチームへのつなぎを行っていると回答した指定病院の割合	80.8% （令和 4 年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	診断時の緩和ケアとして、認定看護師等の同席によるケアを行っていると回答した指定病院の割合	80.8% （令和 4 年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	診断時の緩和ケアとして、つらさのスクリーニングを行っていると回答した指定病院の割合	86.5% （令和 4 年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	診断時の緩和ケアとして、がん相談支援センターを患者へ紹介していると回答した指定病院の割合	84.6% （令和 4 年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査

コア指標の設定・検討について

指　　標			ベースライン値	目値	データソース
がん医療部会					
	緩和ケアワーキング				
	中間アウトカム	拠点病院等と日頃から地域連携していると回答した在宅療養支援診療所の割合	56.6% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	拠点病院等と日頃から地域連携していると回答した地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局の割合	22.9% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	拠点病院等と日頃から地域連携していると回答した訪問看護ステーションの割合	52.3% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	拠点病院の緩和ケア専門医等による専門的緩和ケアのアドバイスについて、必要な時に受けていると回答した在宅療養支援診療所の割合	26.6% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	拠点病院の緩和ケア専門医等による専門的緩和ケアのアドバイスについて、必要な時に受けていると回答したがん性疼痛緩和指導管理料算定病院の割合	25.8% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	アウトプット	がん相談支援センターの新規相談件数（自施設の患者・家族以外の患者・家族・地域住民等による相談）	【国拠点29病院】 5,697件 【都拠点９病院】 464件 【都協力20病院】 765件 （令和５年）	増やす	現況報告書
	中間アウトカム	がん診療に携わるすべての医療従事者により、初診時から一貫して緩和ケアを提供できている、どちらかといえばできていると回答したがん性疼痛緩和指導管理料算定病院の割合	26.7% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	診断時の緩和ケアとして、緩和ケアチームへのつなぎを行っていると回答したがん性疼痛緩和指導管理料算定病院の割合	52.9% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	診断時の緩和ケアとして、認定看護師等の同席によるケアを行っていると回答したがん性疼痛緩和指導管理料算定病院の割合	41.2% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査

コア指標の設定・検討について

指　　標			ベースライン値	目標	データソース
がん医療部会					
	緩和ケアワーキング				
	中間アウトカム	診断時の緩和ケアとして、つらさのスクリーニングを行っていると回答したがん性疼痛緩和指導管理料算定病院の割合	38.2% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	自施設では、７～９割以上のがん患者の緩和ケアに対応できていると回答した在宅療養支援診療所の割合	47.8% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	自施設では、７～９割以上のがん患者の緩和ケアに対応できていると回答した地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局の割合	30.2% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	自施設では、７～９割以上のがん患者の緩和ケアに対応できていると回答した訪問看護ステーションの割合	67.8% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	がん治療に携わる医師について、緩和ケアに関する知識・技術が充足している、やや充足していると回答したがん性疼痛緩和指導管理料算定病院の割合	25.8% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	医師について、緩和ケアに関する知識・技術が充足している、やや充足していると回答した在宅療養支援診療所の割合	52.5% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	看護師について、緩和ケアに関する知識・技術が充足している、やや充足していると回答したがん性疼痛緩和指導管理料算定病院の割合	16.1% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	看護師について、緩和ケアに関する知識・技術が充足している、やや充足していると回答した訪問看護ステーションの割合	51.9% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	医療ソーシャルワーカーについて、緩和ケアに関する知識・技術が充足している、やや充足していると回答したがん性疼痛緩和指導管理料算定病院の割合	29.1% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	薬剤師について、緩和ケアに関する知識・技術が充足している、やや充足していると回答したがん性疼痛緩和指導管理料算定病院の割合	35.5% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	薬剤師について、緩和ケアに関する知識・技術が充足している、やや充足していると回答した地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局の割合	4.2% （令和４年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査

コア指標の設定・検討について

指　　標			ベースライン値	目標	データソース
がん医療部会					
	緩和ケアワーキング				
	中間アウトカム	緩和ケアのイメージについて「がんと診断された時から受けられるものである」と回答した都民の割合	19.0% （複数回答） （令和４年度）	増やす	都民意識調査
	中間アウトカム	緩和ケアのイメージについて「がんが進行し、治療ができなくなった場合の最後の手段である」と回答した都民の割合	35.9% （複数回答） （令和４年度）	減らす	都民意識調査
	中間アウトカム	緩和ケアのイメージについて「がんの治療などによる身体の痛みだけでなく、不安などの精神的苦痛や、医療費・仕事などに関する社会的苦痛による痛みや辛さを軽減することである」と回答した都民の割合	49.8% （複数回答） （令和４年度）	増やす	都民意識調査
	中間アウトカム	緩和ケアのイメージについて「抗がん剤や放射線の治療などができなくなった時期から始める、痛みなどの苦痛を和らげるためのケア」と回答した患者の割合	45.7% （択一） （令和４年度）	減らす	東京都がん患者調査
	中間アウトカム	緩和ケアの内容や範囲について説明を受けたことがあると回答した患者の割合	24.5% （令和４年度）	増やす	東京都がん患者調査

コア指標の設定・検討について

指　　標			ベースライン値	目標	データソース
がん医療部会					
	小児・AYA世代がんワーキング				
	分野別アウトカム	小児がん患者のがんの診断・治療全体の総合評価（平均点）	– （基準値なし）	増やす	東京都小児がん患者調査
	中間アウトカム	「がん」と診断されるまでに 4 か所以上の医療機関に受診した小児がん患者の割合	15.6% （令和 4 年度）	減らす	東京都小児がん患者調査
	中間アウトカム	AYA 支援チームについて「設置されている」と回答した指定病院の割合	30.4% （令和 4 年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	AYA 支援チームについて「知っている」と回答した患者の割合	– （基準値なし）	増やす	東京都がん患者調査
	中間アウトカム	小児がん経験者に対する成人後の長期フォローアップの実施状況について、「実施していない」と回答した指定病院の割合　※成人と共通	34.8% （令和 4 年度）	減らす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	長期フォローアップの必要性について「知っている」と回答したがん患者の割合 ※成人と共通	（成人） — （基準値なし） （小児） — （基準値なし）	増やす	東京都がん患者調査 東京都小児がん患者調査
	中間アウトカム	生殖機能の温存療法について説明を受けた患者の割合	72.4% （令和 4 年度）	増やす	東京都がん患者調査